

どっつきり！ひやり 7年間の使用報告

医) 社団つばさ つばさクリニック

渡部敦子 宮城知徳 内田広康

大山恵子 諸見里仁 大山博司

目的

当クリニックでは、H17年1月より院内ネットワークを利用したインシデント

レポート収集ソフト「どっきり！ひやり」を用いてリスクマネージメントを行ってきた。院内には、リスクマネージメント委員会を設置し、収集したレポートを評価し、安全管理に役立てている。また質の高いケアによる快適な透析を目指し、環境面・業務改善に向けてのレポートも多い。8年の使用経験を振り返り、運用方法、対策、自己評価、展望に関しまとめた。

方法

収集した1700件以上の報告を、電子化のメリットをいかし多面的に解析した。
同じく、経時的な変化と安全対策への具体的な取り組みを紹介する。

- H23年における透析室の状況

透析患者数 130名

常勤医師 3名 看護師 10名 臨床工学技士 6名

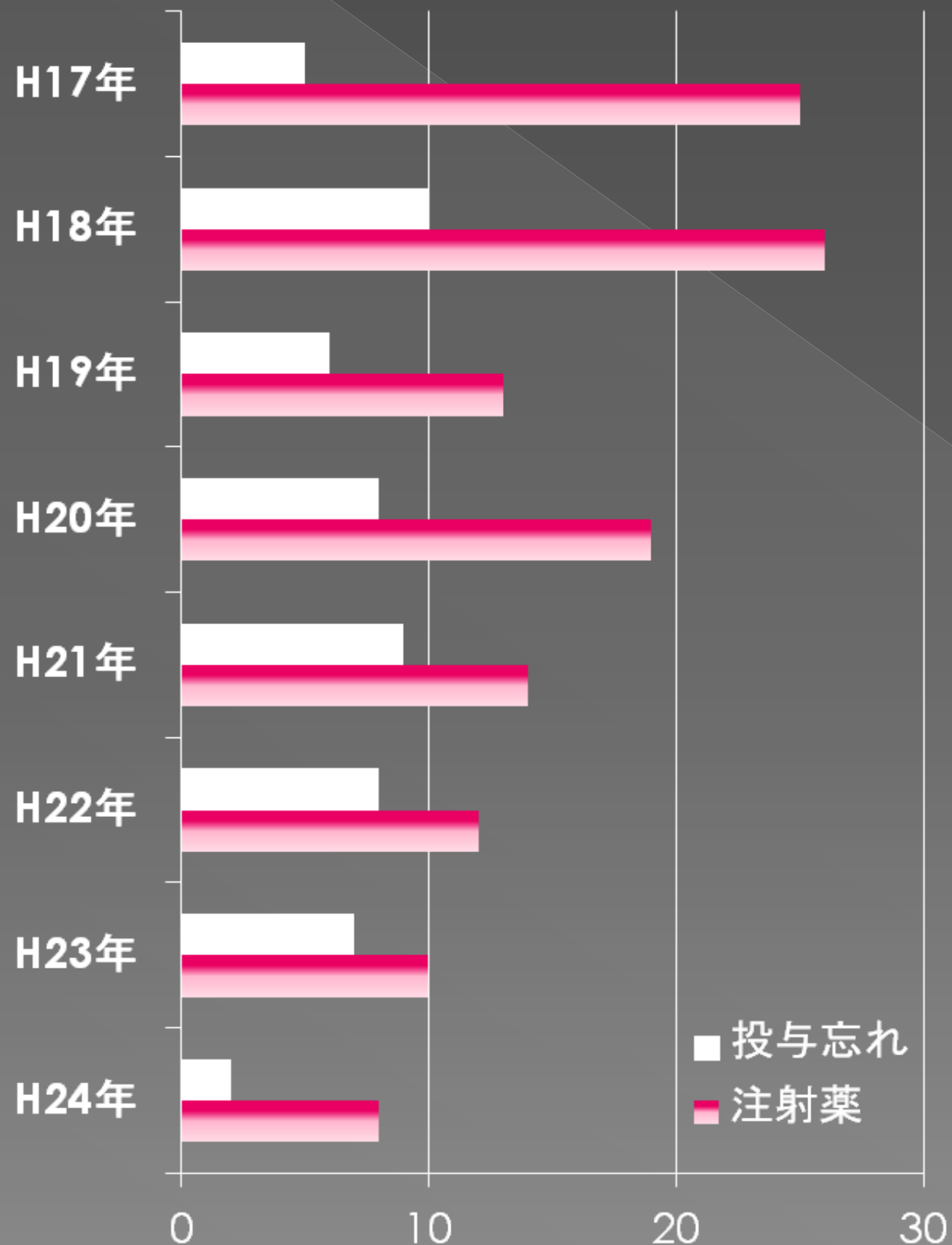
管理栄養士 1名 事務 2名

ヘルパー 3名

項目一覽

[illegible]

薬投与忘れ



H18年4月 終了前のミーティング時の投与忘れ注意の喚起

H21年5月 処置表に投与忘れを赤字で記入

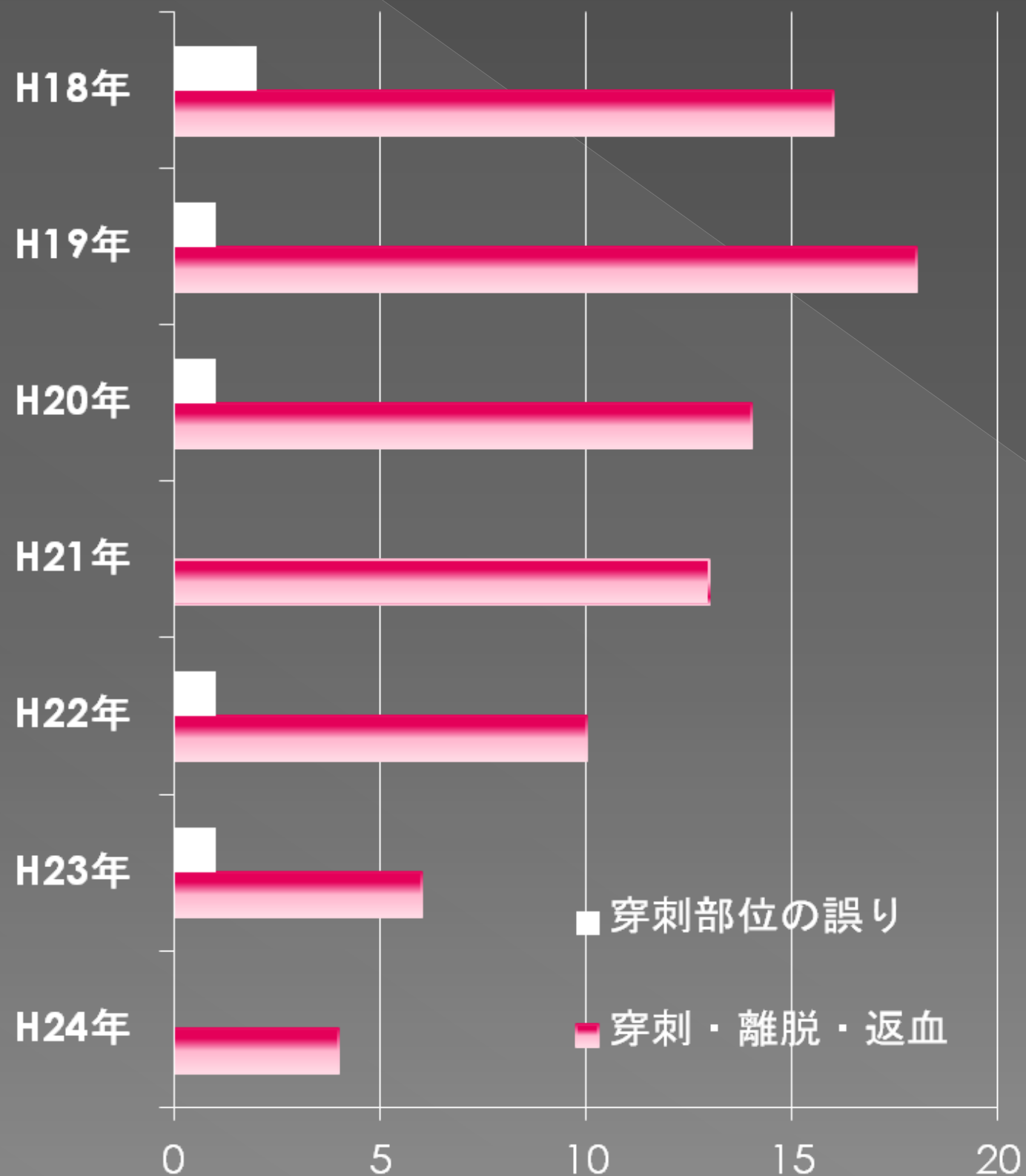
H22年11月 声出し・指さし確認の重要性について院内にて講習会

H23年10月 薬品入力を透明の容器に変更

注射薬の投与忘れ対策：透明の容器とし、コンソールの上に置き目視しやすく改善



穿刺部位の誤り

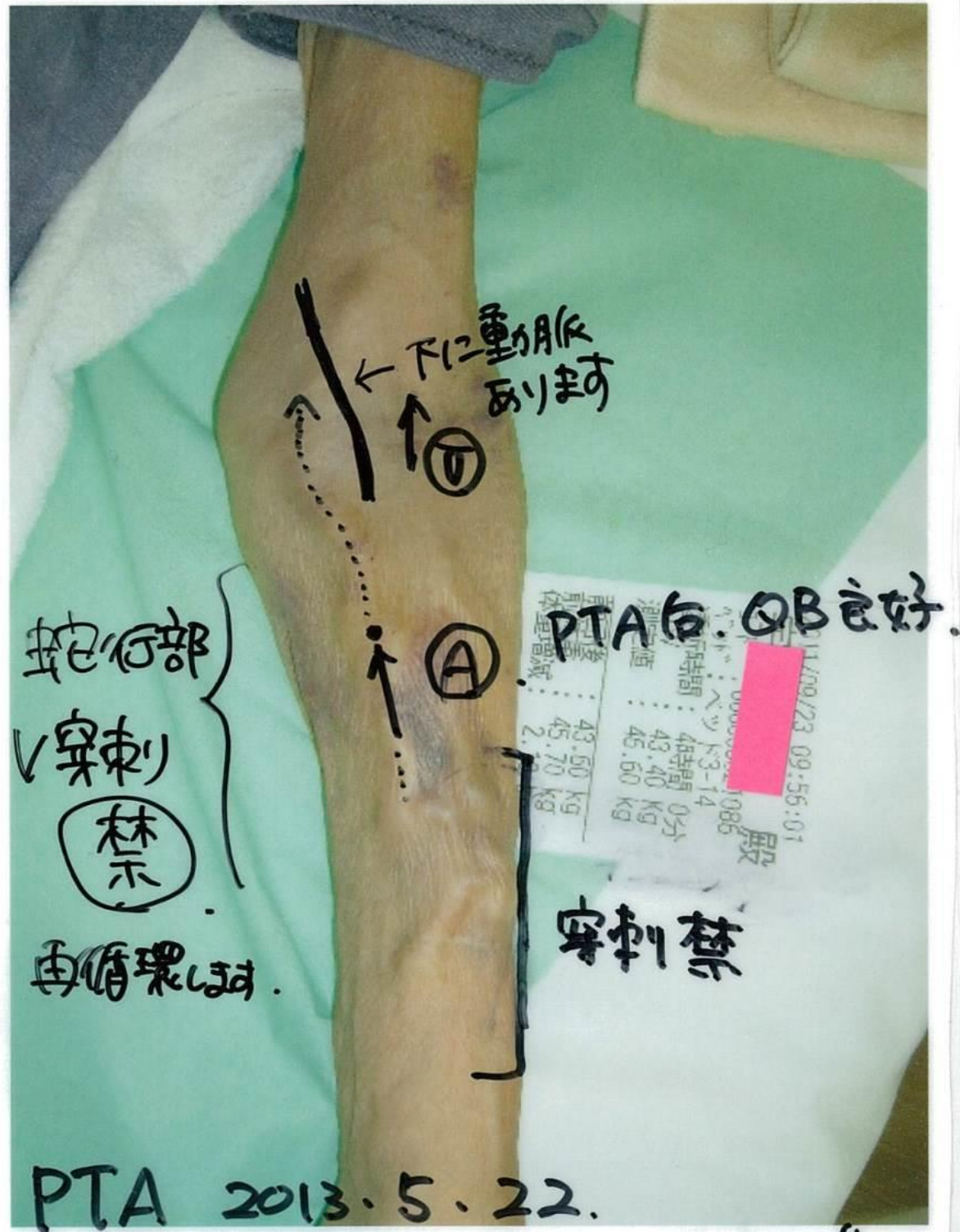


H18年11月 穿刺禁止部位の札を各ベッドに配布、確認しながら穿刺

H19年1月 シヤント部位をデジカメで撮り各ベッドに配布、確認しながら穿刺

H19年4月 VAチームを結成
全患者にVAマップを作成

穿刺部位確認対策：VAマップの作成



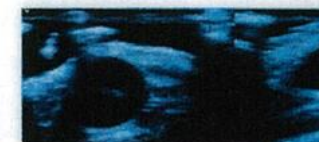
シヤントエコー検査報告書				・病名、検査目的など	
ID	21086				
シメイ					
氏名					
年齢	69才	性別	女	依頼医	
		透析		恵子Dr	
検査日	2011年	10月	12日	☐ スクリーニング ☐ 定期検査	



・上腕動脈 FV: 538ml/min
RI: 0.57

血管径

- ① Ø 5.3mm
- ② Ø 7.9mm
- ③ Ø 45~47mm
- ④ Ø 2.8mm
- ⑤ Ø 2.8~3.0mm
- ⑥ Ø 2.4mm
- ⑦ Ø 3.0~4.0mm



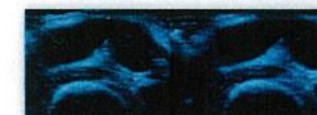
両国東口クリニック
RYOUGOKU EAST GATE CLINIC

左上肢

結果

穿刺痕④より末梢部 1.5～2.0cm に動脈との近接が見られます。中樞部に明らかな動脈との近接は見られませんでした。

上腕動脈 FV 並びに RI は、538ml/min、0.57~0.63 で良好です。駆血による②吻合部直上 1.0~1.5cm に 4mm 大の隔壁を伴う Ø7.9mm の血管瘤と③前腕正中皮静脈に Ø4.5~4.7mm の血管蛇行を認めますが、壁の菲薄化、血栓並びに狭窄はみられません。①脱血部の前腕正中皮静脈径は、Ø5.3mm、返血部(橈側皮静脈)④⑤の径は Ø2.4mm、Ø 3.0~4.0mm でした。



検査者 安達

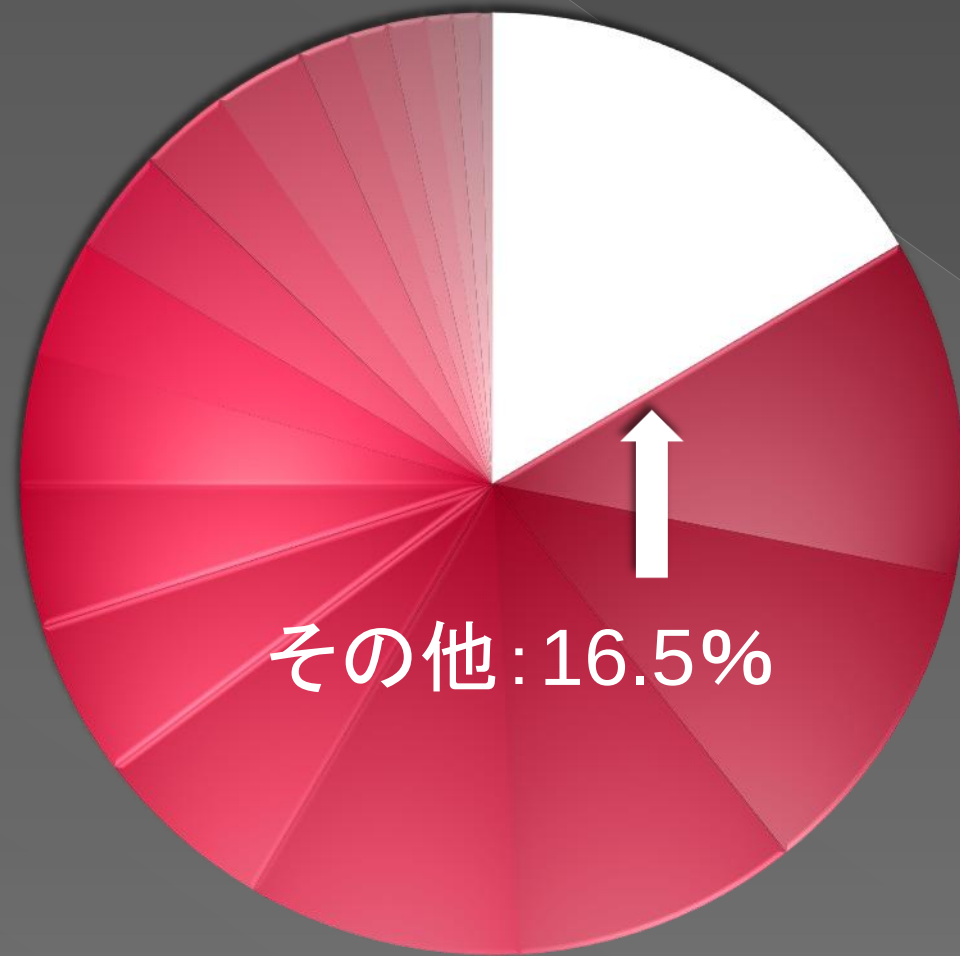
診断医

H23年のヒヤリハット総数は224件あり1番多い内容が「その他」37件（16.5%）あり大項目の見直しの必要性を感じていた。同年5月より近隣の透析室との合同インシデント検討会を行い新たに大項目、小項目のマスターを統一しH23年11月よりスタートとした。

H24年のヒヤリハット総数は214件あり　その他は6件（3.3%）となりほとんどの内容が大項目に網羅され入力しやすい状況になった。

入力項目の見直し

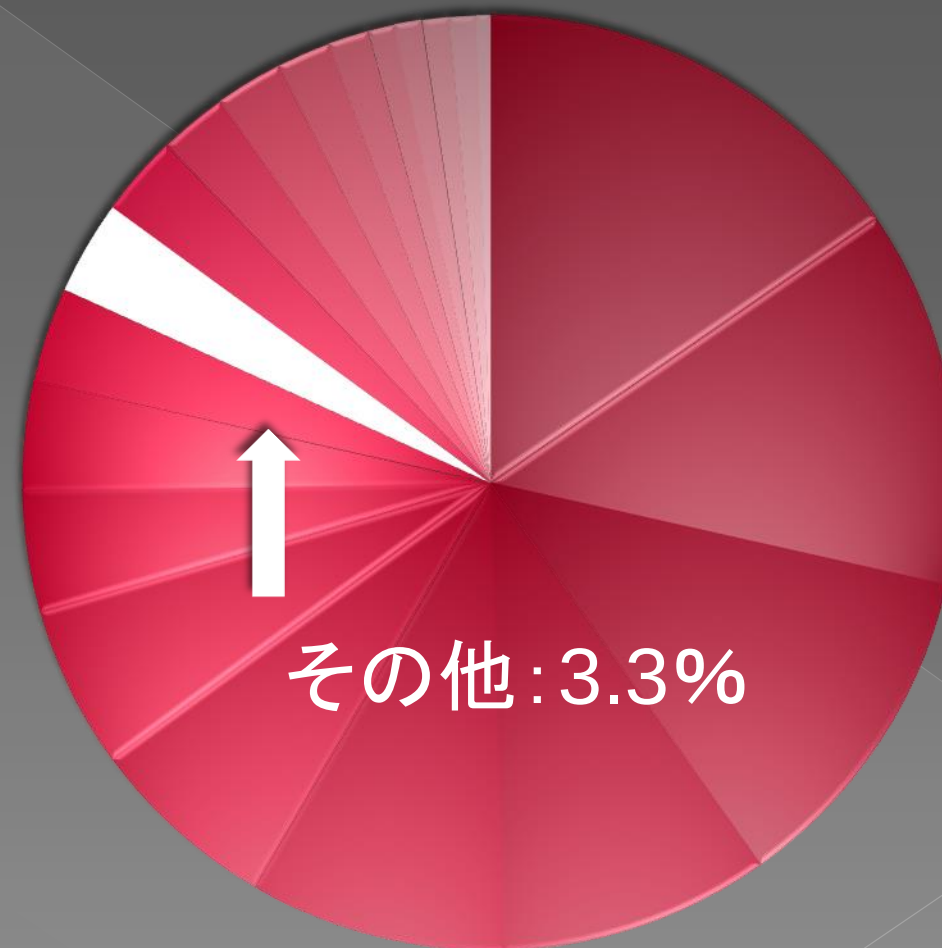
H23年



その他: 16.5%

- その他
- 事務系
- 検査
- レントゲン
- 設定
- 内服・外用薬
- 体重
- 接遇対応
- 注射薬
- 抗凝固剤
- ダイアライザー
- 機器異常
- 穿刺・返血・離脱
- 回路抜針
- 透析液
- プライミング
- 処置
- 食事・栄養
- 輸血・手術

H24年



その他: 3.3%

- 検査
- 事務系
- 治療・管理
- 設定・故障
- 接遇対応
- 体重
- 内服・外用
- 食事・栄養
- 注射薬
- 抗凝固剤
- その他
- ダイアライザー・針
- 抜針
- 処置
- 穿刺
- 透析回路
- レントゲン
- 転倒・転落
- 透析液
- 輸血
- 手術・麻酔

結果

インシデント事例について毎週フィードバックすることにより、医療事故対策が有効となるとともにルールの重要性、業務手順の再確認をすることが可能となった。8年間で1792件のヒヤリハットが集計されており、事故につながりやすい事例、度重なるヒヤリハットに関し対策を講じたことによりアクシデントが起きていないことで、インシデント収集ソフト活用によるメリットが明らかになった。尚現在近隣施設間でのインシデントレポートの共同運用に取り組んでいる。

日本透析医学会 COI 開示

筆頭発表者名： 渡部 敦子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。